
種生物学会ニュースレター No. 39

THE SOCIETY FOR THE STUDY OF SPECIES BIOLOGY NEWSLETTER 39
October 2009

目次

会長メッセージ.....	1
第3回種生物学会片岡奨励賞選考中間報告.....	2
第3回 Plant Species Biology 論文賞選考報告.....	2
選挙公示.....	3
第41回種生物学シンポジウムのご案内.....	3
第41回種生物学シンポジウム事務局から.....	6
第25回京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門シンポジウム.....	8
会費納入のお願い.....	8
書評.....	9
選挙人名簿.....	10
会員異動.....	13
第41回種生物学シンボ参加申し込み用紙.....	14

会長メッセージ：会員により開かれた学会をめざして

会務の一部委托

現在、会員の皆さんと学会との窓口は、会員名簿管理を所管している会計が担当しています。そのため、住所変更や入退会の窓口は、執行部がかわる3年ごとに移動してきました。また、対外的な学会としての窓口も3年ごとに変わってきました。より恒久的な学会の窓口（事務局）がある方が、会員にとっても、また種生物学会が社会的に認知される学術団体として活動するためにも好都合です。しかし、学会として専従の事務員を雇用するだけの経済的余裕はありません。

そのような折、NPO法人CANPANセンターがAcNetという組織を設立し(<http://canpan.info/acnet/>)、中小の学会の運営をサポートする事業を行っていることを知りました。執行部と幹事会で1年あまりかけて慎重に検討を重ねた結果、AcNetに会務の一部を委託することとしました。委託内容は、会員の入退会管理や会計の帳簿管理、英文誌の発送、ホームページのリニューアルとその管理などです。これらの業務委託することにより、会計や庶務の負担を軽くすると同時に、ホームページやメールマガジンなどを通して会員と学会とのコミュニケーションがより緊密にとれるようになると期待しています。

ホームページのリニューアル：<http://www.speciesbiology.org>

12月1日に新しいホームページが公開される予定です。新しいアドレスは、<http://www.speciesbiology.org>の予定です。今後、ホームページの内容を充実させていきますので、どうぞご活用ください。また、メールアドレスをお持ちの方は是非アドレスを会員名簿にご登録ください。今後はニュースレターの電子版もお送りする予定です。

会則改正

12月の総会では、会則の改訂案を審議いただく予定です。ニュースレター39に号外として会則改正（幹事会案）を折り込んであります。これは9月に26日に行われた種生物学会第7回幹事会（臨時）で審議され

たものです。会則改正（案）に対してご質問、ご意見をお聞かせください。10月末日まで受け付けます。ご意見、ご質問は庶務まで電子メールあるいは封書で送ってください。会員の皆様の積極的なご意見を願います。

〒 920-1192 金沢市角間町 金沢大学環日本海環境研究センター植物園 木下栄一郎
e-mail: tennansh@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

会則改正のこれからの予定は以下の通りです。

- 10月末日 会員からの意見の受付
- 11月末日 会員からの意見を基に、幹事会案をとりまとめ、新しいHPに公表する。これに対するご質問・ご意見も受け付けます
- 12月11日 幹事会で会則改正（案）の最終版のとりまとめ
- 12月12日 総会に諮る

会則改正（案）が総会で承認されれば、2010年1月1日以後の学会の窓口連絡先は以下になる予定です。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8F NPO CANPAN センター

AC Net 内 種生物学会（担当：佐藤ちひろ）

c_sato@canpan.jp/ acnet@canpan.org Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909

（会長 可知直毅）

第3回種生物学会片岡奨励賞選考中間報告

第3回片岡奨励賞は、現在選考委員会で選考中です。授賞者が決定次第、学会の新ウェブサイト（<http://www.speciesbiology.org>）で選考結果をお知らせします。

なお、第3回の授賞式は12月12日（土）の種生物学会総会で行う予定です。選考理由はその席上で読み上げられ、ニューズレター40に掲載されます。

（片岡奨励賞選考委員会委員長 角野康郎）

第3回 Plant Species Biology 論文賞選考報告

第3回種生物学会論文賞（Plant Species Biology Best Paper Award 2008）選考に関してご報告させていただきます。種生物学会論文賞の選考は、会長から委嘱された工藤岳、北村系子、加藤真、川窪伸光、小林剛、永光輝義、大原雅（以上、Plant Species Biology 編集委員）7名の選考委員で行いました。今回は、PSB2008, Volume 23 (3), PSB2009, Volume 24 (1-2)に掲載された Regular Paper（16編）を対象とし、各委員の投票による選考を行いました。その結果以下の論文が第3回種生物学会論文賞に決定いたしました。

・Tomoko Okamoto, Atsushi Kawakita, Makoto Kato : Floral adaptations to nocturnal moth pollination in *Diplomorpha* (Thymelaeaceae). PSB (2008) 23-3: 192-201.

この論文の筆頭著者には楯と賞状を、共著者全員に賞状をお贈りさせていただきます。また、表彰式は、12月12日（土）の種生物学会総会で行う予定です。

（Plant Species Biology 論文賞選考委員長 大原 雅）

会長・副会長・地区幹事の選挙公示

現役員の任期は2009年12月31日までです。そのため、次期役員選挙を行います。今後3年間の種生物学会の運営を担う役員を選出する重要な選挙です。会員の皆様のご意見を役員の人選に反映して頂けるようお願い致します。任期は、会長・副会長・地区幹事ともに2010年1月1日から2012年12月31日までです。定員や投票方法等の詳細につきましては、下記をご参照ください。会員の皆様のご協力をお願いいたします。名簿は10頁から12頁にあります。

(種生物学会選挙管理委員会)

記

会長 1名 副会長 1名

地区幹事 全14名：北海道 1名、東北 2名、関東 3名、中部 2名、近畿 3名、
中国・四国 2名、九州・沖縄 1名

投票用紙記入の注意：

1. 会長・副会長の投票に際しては、それぞれ1名の氏名をフルネームでご記入ください。2名以上記入された場合は無効票となります
2. 地区幹事の投票に際しては、所属地区の定員以内の人数の氏名をフルネームでご記入ください。地区定員を超えた人数を記入された場合は無効となります
3. 会長、副会長、地区幹事として、同じ方（被選挙権を持つ方）に投票しても有効です

被選挙権

会則7により会長の再選が禁じられているため、次の6名には会長の被選挙権がありません。

伊藤元己、可知直毅、河野昭一、堀田 満、森田竜義、矢原徹一

会則9により地区幹事の連続3選が禁じられているため、次の5名には地区幹事の被選挙権がありません。

高田壮則（北海道）、芝池博幸（関東）、綿野康行（関東）、加藤 真（近畿）、西脇亜也（九州・沖縄）

候補者

会則8と選挙に関する附則2に従い、以下の候補者を幹事会より推薦します。なお、幹事会が推薦した下記の候補者以外の被選挙権をもつ会員への投票も有効です。

会長候補者：角野康郎

副会長候補者（あいうえお順）：川窪伸光、高田壮則、西脇亜也

投票用紙の送付

- ご記入頂いた投票用紙は、同封の返信用封筒で下記の選挙管理委員会宛に郵送をお願い致します。封筒には、住所、氏名、地区名を必ずご記入ください。
- 11月9日（必着）です。それ以降のものは無効票となりますので、ご注意ください。

送付先

〒310-8512 水戸市文京 2-1-1 茨城大学 理学部 生物科学領域 生態学研究室気付
種生物学会選挙管理委員会

第41回種生物学シンポジウムのご案内

— 若手研究者向けの論文投稿講習会も開催 —

今年の種生物学シンポジウムは、2009年12月11日（金）－12月13日（日）に、八王子セミナーハウス（大学セミナーハウス）で開催します。じっくり議論をしていただき、さらに親睦も深めていただくために、種生物学シンポの伝統にしたがって今回も合宿形式のシンポジウムです。皆様、どうか奮ってご参加ください。また、下記の企画シンポジウム以外にポスター発表を受け付けます。ポスター賞もありますので、積極的にポスター発表をしていただければ幸いです。

さらに、今回初めての試みとして、初日のプレシンポの前に、若手研究者向けの「論文投稿講習会」を開催いたします。種生物学会の英文誌である *Plant Species Biology* を出版している WILEY-BLACKWELL 社の柏村愛さんと、その編集委員長である大原雅さん（北海道大学）に、PSB 誌への電子投稿用の論文原稿の体裁などを中心に、電子投稿の勘所に加えて、editor や reviewers のコメントにどう応えるべきかなどについても具体的に解説していただく予定です。PSB 以外の英文誌に投稿する際にも役立つ内容です。

当然ですが、今回の種生物学シンポジウムの参加者は無料でこの講習会に参加していただけます。種生物学会会員の方がこの講習会だけに参加される場合も無料です（非会員で、この講習会のみに参加される方については、会場費の一部として当日、500 円を徴収させていただきます）。講習会参加者には、WILEY-BLACKWELL 社から粗品が配布される予定とのことです。こちらの講習会の方も、奮ってご参加ください。

第 41 回種生物学シンポジウム 実行委員長	村上 哲明（首都大学東京 牧野標本館）
事務局代表	加藤 英寿（首都大学東京 牧野標本館）

さて、今回の種生物学シンポジウムの企画シンポについてですが、初日（12月11日）のプレシンポでは、東北大学の千葉聡さんをお招きし、小笠原諸島産のカタツムリの種分化についてご講演していただきます。千葉さんは、一昨年（2007年6月）、25年ぶりに行われた南硫黄島の調査にも参加され、多数の固有新種のカタツムリを発見されました。小笠原諸島で起きているカタツムリの非常に早い種分化は、種生物学的にも進化的にも非常に興味深いものです。カタツムリは比較的移動能力が小さい、雌雄同体であるなど、多くの陸上植物と共通する性質をもっています。植物を材料にしている研究者にも、自身の研究材料と関連づけて聞いていただける話題になると思います。

2日目（12月12日）は、シダ植物を材料にしてマクロ生物学の研究をしている演者を集めたシンポジウム I を予定しています。シダ植物は配偶体世代（いわゆる前葉体）が孢子体世代と独立して生活するのが特徴です。さらに配偶体は、一般的に雌雄両全です。それゆえに自配受精という一度の自家受精で、すべての遺伝子座についてホモ接合になるという非常に強い近親交配が可能な体制をしています。このような性質は、シダ植物を材料にして QTL 解析などの遺伝学的解析をする上で、シダ植物の生物材料としての利点となりえます。またこの自配受精が可能な体制をしていることが、シダ植物に多数の倍数体が見られることにつながっていると考えられています。そして、倍数体が多いことは、その種分化速度が早いことにつながり、形態では識別しにくい複数の生物学的種（隠蔽種）を多数生み出すことになるとも考えられます。一方、最近、シダ植物には主として配偶体のみで繁殖していると考えられるものも次々に見つかってきています。また、二次的に有性生殖をやめて無配生殖をするようになった種が多い（日本産シダ植物の17%の種が無配生殖種）のも、シダ植物の特徴です。シンポジウム I では、このようなシダ植物のもつ特性に着目して、あるいはそれらをうまく利用して、シダ植物にみられる多様な現象について興味深い研究をしておられる演者を集めました。この機会に種生物学、進化生物学の研究材料としてのシダ植物のおもしろさを多くの人に知っていただければ幸いです。

最終日の3日目（12月13日）には、動物の視覚に焦点をあてたシンポジウム II を予定しています。動物の視覚は、餌の探索や交配相手の選択など、さまざまな場面でその役割を果たしています。それゆえ生物の世界は、視覚がもたらしたと考えられる様々な現象に満ちあふれています。異性の目を引く鮮やかな体

色や、捕食者の目をあざむく擬態、色とりどりの花や果実などは視覚の産物であり、多くの生態学者の興味を引きつけてきました。こうした視覚に関する現象を扱うとき気をつけなければならないのは、「生き物に見えている世界は、必ずしも私たちと同じではない」ということです。たとえば花を訪れるミツバチには、私たちには見えない紫外線が見えています。ある花が目立つ、目立たないといった議論ひとつをとっても、虫の眼をとおすと違った結論にたどりつくかもしれません。視覚に関わる現象を正しく理解するには、「生き物に見えている世界」を考える必要があるのです。

その手助けとなるのが視覚生理学の知識です。動物がどのような構造で光を受け取り、どのように神経系で処理をしているのかについては、世界中の研究者によって、日々、新たな成果が報告されています。こうした視覚についての知識を身につけ、生き物の眼をとおして対象に向き合うことで、これまで見えなかった世界が見えてくる可能性があります。シンポジウム II では、視覚にまつわる現象を、生理学の視点、生態学の視点、さらには両方の視点から研究されている方々にそれぞれ話題を提供していただく予定です。そして、両分野の融合によって広がる研究の可能性を提示したいと考えています。

開催日時：2009年12月11日（金）午後4時 ～ 12月13日（日）午後4時

会場：八王子セミナーハウス

〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1

TEL 042-676-8511 FAX 042-676-1220

<http://www.seminarhouse.or.jp>

プログラム（仮）

12月11日（金）

16:00 一般受付開始 ポスター貼り付け開始

16:30-18:00 論文投稿講習会

- 柏村 愛（WILEY-BLACKWELL 社）：投稿論文原稿の形式と電子投稿の実際
- 大原 雅（PSB 編集委員長）：editor とのうまいつきあいかた

18:00-19:00 夕食（予約申込者以外は、自分自身で夕食をご準備ください）

19:00-20:00 プレシンポ

- 千葉 聡（東北大・生命科学）：小笠原諸島におけるカタマイマイ属の適応放散

12月12日（土）

08:00-09:00 朝食

09:00-10:30 シンポジウム I

「シダの種生物学」

企画者：角川（谷田辺）洋子（科博・植物）・村上哲明（首都大・牧野標本館）

- 09:00-09:45 村上哲明（首都大・牧野標本館）：進化・多様性研究の材料としてのシダ植物の特性とおもしろさ
- 09:45-10:30 角川（谷田辺）洋子（科博・植物）：シダ植物における適応進化の遺伝的背景 —ゼンマイ類を材料にして

10:30-12:00 ポスター発表

12:00-13:00 昼食

13:00-14:30 シンポジウム I （続き）

- 13:00-13:45 高宮正之（熊本大・自然科学）：シダ植物の雑種形成 —二倍体種と倍数体種
- 13:45-14:30 綿野泰行（千葉大・理）：倍数体シダ植物種における種分化機構—隠蔽種を材料にして

- 14:30-14:45 休憩
- 14:45-15:30 海老原 淳(科博・植物)：シダ植物の網状進化と野生配偶体ーハイホラゴケ群を例に
- 15:30-16:15 篠原 渉(京都大・理)：多様性を生み出すシダ植物の無配生殖ーキナバル産マレーハウビシダを例にして

16:15-16:45 総合討論 司会：角川(谷田辺)洋子

16:45-17:45 種生物学会 2009 年度総会

17:45-18:30 休憩

18:30-19:00 片岡奨励賞・Plant Species Biology 論文賞・ポスター賞の授賞式

19:00-21:00 懇親会(+ポスター発表つづき)

12月13日(日)

08:00-09:00 朝食

09:00-11:45 シンポジウムII

「生き物の眼をとおして覗く世界ー生理学が支える認知生態学の可能性」

企画者：牧野崇司(筑波大・生命環境)・安元暁子(京都大・生態研センター)

- 09:00-09:15 牧野崇司(筑波大・生命環境)：シンポジウムIIの趣旨説明
- 09:15-10:00 弘中満太郎(浜医大)：カメムシの視覚ナビゲーション
- 10:00-10:15 休憩
- 10:15-11:00 田中啓太(理研)：鳥類の紫外線知覚とコミュニケーションにおけるその利用
- 11:00-11:45 若桑基博(総研大)：ミツバチ・モンシロチョウの視覚生理

12:00-13:00 昼食

13:00-15:20 シンポジウムII (続き)

- 13:00-13:45 平松千尋(生理研)：サルの視覚と果実の色の関係
- 13:45-14:30 寺井洋平(東工大)：光環境への視覚適応がもたらすシクリッドの種分化
- 14:30-14:45 休憩
- 14:45-15:20 大橋一晴(筑波大・生命環境)：送粉動物の目から見た花色変化

15:20-16:00 総合討論(コメンテーター：蟻川謙太郎(総研大))

なお、本プログラムに記されている講演者や演題は、あくまでも予定であり、まだ確定ではありません。

第41回種生物学シンポジウム事務局からのお知らせ

参加申し込み

第41回種生物学シンポジウム事務局

第41回種生物学シンポジウム事務局宛てに参加申し込み用紙をFAX、郵送、またはe-mail(参加申し込み用紙を見て、必要事項をお書きください)でお送りください。

参加申し込み締め切り：
10月30日(金)

- ファックス：042-677-2421
- 電子メール：psb09ml@tmu.ac.jp(ピー・エス・ビー・ゼロ・九・エム・エル)
- 郵送の宛先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 牧野標本館

ポスター発表の募集

例年通り、ポスターセッションを行います。ポスター発表を希望される参加者の方は、参加申し込みと同時に申し込んでください。発表タイトルと発表者名(所属も含む)を申し込み用紙に記入し

てください。

- ポスター発表の主発表者（演者）は、種生物学学会会員に限ります
- 種生物学学会に入会を希望する方は、以下の所に電子メールで申し込んでください：
西谷里美（satomi-n@nms.ac.jp）
- ポスターボードのサイズ：170cm（縦）×90cm（横）です
- ポスター賞に応募するかどうかのチェックも忘れずをお願いします

ポスター発表の申し込み締め切り：
10月30日（金）

参加費

- 一般（会員） 5,000円
- 一般（非会員） 6,000円
- 学生（会員） 2,000円
- 学生（非会員） 3,000円

シンポジウム当日に会場でも種生物学学会への入会を受け付けます。

宿泊費（素泊）

- 12月11日、12日ともに1泊4,600円
- 基本的に相部屋です。部屋割りは事務局にご一任ください。
- 各宿泊室には、バスタオル、フェイスタオルが泊数分用意されています。歯ブラシ、浴衣、ドライヤー等は各自でお持ちください。

食事代

12月11日（金）	夕食	1,100円
12月12日（土）	朝食	500円
	昼食	700円
	懇親会（一般）	5,000円
	懇親会（学生）	3,000円
12月13日（日）	朝食	500円
	昼食	700円

食事は事前予約者のみ受け付けます。当日受付はできません。申し込みの時にお間違えのないようお願いします。懇親会費は夕食費込みです。

参加費・宿泊費・食事代の振り込み

今回、専用の振り込み用紙は準備しておりません。ゆうちょ銀行（郵便局）にある振り込み用紙に以下の口座番号をご記入の上、参加費、宿泊費、食事代の合計金額をご送金くださいますようお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行（ばるる振り込み）

口座番号： 00150-4-710238

加入者名： SSB41 準備委員会

その他

万一、宿泊や食事の予約を変更される場合は、できるだけ早めに事務局までご連絡ください。11月11日（水）を過ぎると、宿泊先にキャンセル料を支払う必要が生じる可能性があります。

会場へのご案内

八王子セミナーハウス

〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1

TEL 042-676-8511 FAX 042-676-1220

<http://www.seminarhouse.or.jp>

- 京王線 北野駅（北口）下車、駅から由木折返場・南大沢駅行き京王バスで「野猿峠（やえんとうげ）」下車、バス停から徒歩5分。所要時間は、約10分。
- JR中央線 八王子駅（南口）下車、駅から由木折返場・南大沢駅行き京王バスで「野猿峠」下車、バス停から徒歩5分。所要時間は、約25分。
- 京王相模原線 南大沢駅（南口）下車、駅から北野駅・八王子駅行き京王バスで「野猿峠」下車、バス停から徒歩5分。所要時間は、約20分。
- タクシーで、北野駅より約5分、八王子駅南口より約15分、南大沢駅より約10分。
- 自家用車で来ることも可能です（セミナーハウス利用者用の駐車場があります）。ただし、駐車スペースには限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

第 25 回京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門シンポジウム

平成 21 年 11 月 12 日 (木) 国立京都国際会館

種生物学会は第 25 回 (2009) 京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門シンポジウムを協賛します。種生物学シンポジウムと同様に、ふるってご参加ください。入場は無料ですが、事前申し込みが必要になります。ご注意ください。

「進化・種分化・長期フィールド研究」 “Evolution, Speciation and Long-Term Field Study”

主催：財団法人 稲盛財団

日時：平成 21 年 11 月 12 日 (木) 13:00~17:10

場所：国立京都国際会館

企画：巖佐 庸 (九州大学 大学院理学研究院 教授)

講演者と講演タイトル (講演順)：

- Peter R. Grant 基礎科学部門 受賞者 (プリンストン大学名誉教授)・B. Rosemary Grant 基礎科学部門 受賞者 (プリンストン大学名誉教授)：Evolution of Darwin's Finches
- 中村 浩志 (信州大学 教育学部 教授)：カッコウ卵擬態の急速な進化
- 矢原 徹一 (九州大学 大学院理学研究院 教授)：送粉昆虫に対する花の適応とその遺伝的背景
- 加藤 真 (京都大学 大学院地球環境学堂 教授)：コミカンソウ科で発見された絶対送粉共生系：パートナー同士の急速な相乗多様化
- 岡田 典弘 (東京工業大学 大学院生命理工学研究科 教授)：ビクトリア湖シクリッドの急速な種形成の分子機構をさぐる

後援：京都府、京都市、NHK

協賛：種生物学会、個体群生態学会、日本進化学会、日本生態学会、日本鳥学会、日本動物学会、日本動物行動学会

申込方法：入場無料。ただし事前申し込みが必要になります。稲盛財団ホームページ (<http://www.inamori-f.or.jp/>) 上の専用受付ページもしくは、住所・氏名・年齢・電話番号・職業 (学校名) を記入の上、ハガキ又は

FAX で下記の間合せ先宛にお申込み下さい。折返し入場票を送ります。

申込締切：11月6日 (金) 定員 150 名 (先着順)

間合せ先：〒600-8411 京都市下京区烏丸通り四条下ル水銀屋町 620 番地 (財) 稲盛財団 京都賞事務局「ワークショップ B」係

TEL: 075-344-3050 FAX: 075-353-7270

e-mail: kyoto@inamori-f.or.jp

会費納入のお願い

種生物学会の会費は前納制です。2010 年度の会費を下記あてお振込み下さいますようお願い申し上げます。会費は、一般会員 12000 円、学生会員 6000 円です。特に 2009 年度までの会費に未納金がある方はお急ぎ下さいますようお願い申し上げます。お振込み頂く金額は宛名ラベルの右下に記してありますので、ご確認下さい。

郵便振替番号 00240-6-45544

加入者名 種生物学会

(会計幹事 西谷里美)

書評：森の芽生えの生態学 正木隆 編（文一総合出版）

どんなに大きな樹木でも、とても小さな実生の時期を経て、現在に至る。種子から発芽したばかりの実生の時期は一般的に死亡率が高く、今後の定着に大きく影響する。これまでの研究から、樹木がある場所に定着できるかどうかは、ほとんどの場合、種子から実生の段階で決まることがわかってきている。このため、実生の生態は、森林の成り立ちを理解する上で重要な鍵となる。本書は、そういった樹木実生について、様々な視点からの研究成果を、基礎的な研究から調査方法、応用的な取り組みに至るまで、5部構成で分かりやすく紹介している。

順を追って内容を紹介しますと、第1部では、“すべての森林は芽生えからはじまる”と題して、多様な樹種が共存する仕組みについて芽生えの継続調査からアプローチした研究(第1章)と、埋土種子からの植生回復に焦点を当てた研究(第2章)が取り上げられている。第1章では、構成種の違いの一部は実生定着制限で説明できるが、それだけでは不十分で、その後数年間の振る舞いや、もっと長期的な視点での地滑りや洪水といった大規模な攪乱も、多様性を説明する要因として必要な可能性を指摘している。

第2部では、“環境に敏感な実生の姿”と題して、地形と定着率の関係(第3章)、種子サイズと実生の成長パターンとの関係(第4章)、光に対する環境応答特性の種間での違い(第5章)が取り上げられている。野外での観察で得られた、実生の生態に影響している要因を抽出し、野外実験や生理学的手法を用いて問題解決に取り組んだ研究が第2部の内容となっている。

第3部では、“芽生えをとりまく生物の世界”と題して、種子菌との関係(第6章)、種子の死亡要因(第7章)が取り上げられている。第7章では、種子の死亡要因を探る中で、ツチカメムシの散布後の種子捕食者としての新たな一面が明らかになるまでの研究過程が紹介されている。

第4部では、“芽生えを研究する方法”と題して、調査前の準備から調査後のデータ整理の手法(第8章)と、実生と果皮からのDNA解析を通して両親を特定する手法(第9章)が紹介されている。第8章のデータ解析の項では、一般化線形モデルや統計ソフトウェアであるRについても簡単に触れられている。同時に統計の専門書も紹介されており、統計解析の勉強を始める手がかりにもなるだろう。第9章では、マイクロサテライトマーカーを用いた実生の両親判定手法と、その研究結果が紹介されている。本文中にも、「この技術を利用してどんな新しい事実が発見されるのか、楽しみは増す一方である」とあるが、この一文こそ読者の心情を代弁しているだろう。

第5部では、“芽生えの生態学から森づくりへ”と題して、実生の生態学を森づくりに応用した取り組みとして、第10章では天然更新事業が、第11章では熱帯林における植林が紹介されている。基礎的な研究をどうすれば現場に応用できるか、考えさせられる。

本書全体を通して、著者の実生という材料に対する深い興味と思い入れが文章の端々から感じられる。そして、読後に実生に出会うと、その実生が現在に至るまでの過程と、その将来について思いを馳せることになるだろう。森林研究に携わっていなくても、実生を通して森の姿がみえ、山歩きが楽しくなる、そんな1冊である。

(九州大学システム生命科学府生態科学研究室 廣田峻)

会員異動 (2009年8月31日まで)

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

種生物学会ニュースレター39

発行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org>

編集 木下栄一郎 (庶務)
〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学
環日本海域環境研究センター植物園

発行日 2009年10月1日
印刷所 金沢電子出版株式会社

第 41 回種生物学シンポジウム参加申し込み用紙

一人一枚ご使用下さい。また該当する□にチェックをお願いします。
申し込みおよび参加費振込は 10 月 30 日（金）までをお願いします。

ファックスの場合：042-677-2421

電子メールの場合：psb09ml@tmu.ac.jp（ピー・エス・ビー・ゼロ・九・エム・エル）

郵送の場合：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京 牧野標本館

第 41 回種生物学シンポジウム事務局

ふりがな _____ 男性 女性
氏名： _____ (部屋割り用)

所属： _____

連絡先：住所 〒 _____

電話番号： _____ E-mail： _____

上記の連絡先は： 所属機関 自宅

一般

学生

シンポ参加費 会員 5,000 円 2,000 円

非会員 6,000 円 3,000 円

現在非会員ですが入会予定です。

論文投稿講習会に参加します。

宿泊

12 月 11 日（金）宿泊(4,600 円) 12 月 12 日（土）宿泊(4,600 円)

食事

12 月 11 日（金） 夕食(1,100 円)

12 月 12 日（土） 朝食(500 円) 昼食(700 円)

懇親会(一般 5,000 円) 懇親会(学生 3,000 円) *夕食込

12 月 13 日（日） 朝食(500 円) 昼食(700 円)

合計金額 _____ 円

ポスター発表を行う： ポスター賞に応募する：

タイトル： _____

発表者(所属)： _____